

編集後記

1960年10月に開所式が行われ既に40年の月日がたちました。40年間で観測プログラムに掲載された観測者は約570名を数え、その経験と志は次々と受け継がれ“すばる望遠鏡”へとつながっていきました。観測所もユーザーの皆様に叱咤激励されながら成長を続け、地域の皆様のご協力のもとに日本の天文学を支えてまいりました。

時代の流れとはいえ、40年前と今では観測機器はもちろん観測者、観測の雰囲気もずいぶんと変わってきました。写真時代のなにかゆったりとした流れから、ある時を境に急に流れが加速され水量も何倍にも増えた感じがいたします。日本の天体物理学は岡山から始まったと言えば言い過ぎでしょうが、その時々マッチした観測機器が多く作られてきました。それらが全て優れた論文を産み出したとは思われませんが、我が国における天文学の裾野を広げ、着実に今日の観測天文学の基礎を築いてきたと思っています。

国内の光赤外線研究者の期待のもとに誕生した“すばる望遠鏡”は2000年の暮れから定常運用に入りました。それに伴い、国内の光学望遠鏡のあり方も大きく変わろうとしています。それらを鑑み、これまでの国内観測天文学の一つの区切りとして、また岡山天体物理観測所のまとめとして、40周年誌の編集を始めました。日本の観測天文学を支えた観測機器についてはもう少し詳述し、研究成果までフォローすべきでしたが、力及ばなかった感は否めません。また紙面の都合上、P.I.装置については装置の記述を割愛させていただきました。

寄稿者の皆様には全く急な寄稿をお願いしたにもかかわらず快く執筆を引き受けていただきました。山陽新聞、読売新聞、毎日新聞、岡山県立博物館、徳重真弓さんには貴重な資料を提供していただきました。栗野諭美さんには章扉の天体の解説を執筆していただきました。林博さん、植松晃さんには記念誌作成の手続きについてご助言とご協力をいただきました。また、観測所職員の皆様には、本誌編集に時間をとられるあまり滞りがちであった作業の分担をしていただいたほか、折に触れ編集に関するご助言をいただきました。半年という短い編集時間ではありましたが、多くの皆様方のご協力によりどうにか出版まで漕ぎ着けました。編集委員一同御礼申し上げます。御一読下されば幸いです。

渡辺 記

岡山天体物理観測所40周年記念誌

編集委員 前原英夫、渡辺悦二、泉浦秀行、柳澤顕史、浦口史寛
田実晃人、森 淳

発行日 平成13年3月30日

編集 岡山観測所40周年記念誌編集委員会

発行 文部科学省国立天文台岡山天体物理観測所
岡山県浅口郡鴨方町本庄 電話 0865-44-2155

資料提供 山陽新聞、読売新聞、毎日新聞、岡山県立博物館、徳重真弓

協力 粟野諭美

編集協力・印刷 旭総合印刷株式会社
